

## たじみん昼話 65

### 美術 I 選択者のプレゼン

2月16日に、一年次生の美術選択者の作品プレゼンテーションを見学した。

ききょうはこの企画を楽しみにしていた。

それは、直接作者の解説が聞けるため作品が理解しやすく、ききょうに欠けている絵画鑑賞能力を高めるチャンスになると考えたからだ。

どの作品も素晴らしい感性で絵が描かれていたが、特に感動したものを紹介する。

・「まだ見ぬ未来へ、かけこみ乗車」

赤い電車を自分に例え、不安定で何が起こるかわからない世の中においても、立ち止まらず未来に進み続ける想いを描いた作品。

・「高校に入ったけど、苦しいときもあるよね」

高校生になって、成長したと思っていたけど、現実には上手くいかず、自分は微力で弱いと強く感じ、行き詰っている状態を表した作品。

・「安らぎ」

猫が現実世界を見て想像する様子を描いた作品。何かに縛られず、きままに自由に、ときに居眠りをしながら、猫のような時を過ごしたいという願望を表現した作品。

・「道のり」

真っ暗な闇の世界を突き進んでいる自分の心をイメージした作品。猫が振りかえって見ている奥の部屋の暗さは、作者の心の不安や迷い、後悔を表している。

・「仲間（全て）からエネルギーを」

光っている狐を中心に描いた作品。光っているのは月の光のおかげ。その月も沈んだ太陽の光で光っていることを表現している。「沈んだ太陽」としたところに、仲間のおかげで自分は輝いているが、そこには複雑な何かしらの思いもあることを暗喩的に感じさせる作品。

興味がある作品があれば美術の先生に問い合わせをしよう。